38 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(9) 伝統文化(2) ―梯子乗りと木遣り歌―

29 期　仲田　元昭

今回は、毎年 1 月 5 日に船橋市役所前と 6 日の出初め式等で行われる、船橋市指定無形民族文化財の「梯子乗りと木遣り歌」についてご案内します。

船橋鳶職組合若鳶会による木遣り歌

「船橋の町火消し」

享保 3 年(1719)に町火消しが江戸で誕生し、船橋でも江戸の町火消しにならって組織されていたらしく、市内に江戸時代の纏（まとい）が数本残っているようです。

明治 27 年(1894)、勅令によって近代的消防が組織されたが、その頃と思われる竜吐水が市内にあり、出初め式は既に行われていたが木遣り歌はなく小出三木蔵が東京で覚え船橋に普及させと言われております。

「梯子乗りと木遣り歌」

梯子乗りは、伝統文化の一つで町火消しの中心だった鳶職の仕事前の準備運動や訓練のため行われたようです。市内で梯子乗りと木遣り歌が正月に行われるようになったのは、昭和 10 年(1935)以降で船橋鳶職組合若鳶会によって伝承され、梯子乗りは高さ 3 間半（約 6.3m）の梯子の上で披露されます。

梯子乗りの頂上技と途中技

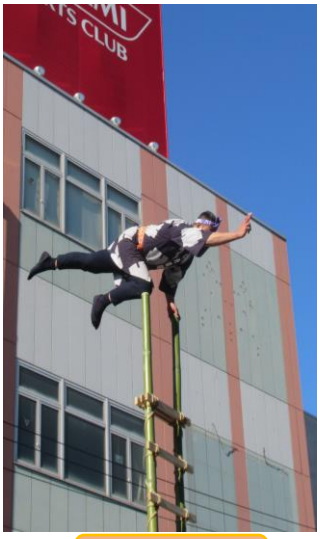
木遣り歌は、作業唄で、複数人で仕事をする時に力を一つにまとめるために、掛け声や合図として唄われたもので、民謡等の唄として各地に伝承され、船橋でも「通し」といわれる歌 5 曲他数曲あります。 母校の近く木場の木遣り歌は、都の無形民俗文化財に指定されています。

「梯子乗り見どころ」

梯子乗りでは、頂上技の遠見（とおみ）、背亀、逆さ大の字等途中技の腕溜め、谷覗き等 12～13 種類の妙技が披露されます。

江戸の火消しの面影をよくとどめており、県内では起源の古い部に属しています。

頂上技　逆さ大の字



遠見

(写真：2024 年 1 月市役所前、参考資料：船橋市教育委員会文化財、広報ふなばし 2024 年 1 月他)

「39 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(10)に続く」「2024-1-10 寄稿」